

＜今日の説教のポイント 創世記4章＞

注目すべき点 — ヨセフの計略は何を考え、何をもたらしたか？

①ヨセフの企て — ベニヤミンへの思い。しかしそれだけではない！

弟ベニヤミンとの再会を喜んだヨセフでしたが(43:30, 34)、そのまま兄たちと共に彼を帰らせるのではなく、計略を練り、彼だけ自分の下に残させようとしてしました(44:17)。母親が同じ唯一の兄弟への思いの強さを思わされます。しかし、聖書はもっと深いことを告げています。

②ベニヤミンに起こったことに感じる妙な既視感。そうだ、ヨセフだ！

銀の杯を盗んだと言われた時、兄たちは自信をもって強く否定します。当然です、やっていないのですから。しかし、それが見つかった時、ユダは、「神が僕どもの悪を暴かれたのです」(16)と語ります。なぜでしょうか？ かつて、やったのに隠し通していたヨセフ殺し計画。今回の出来事はそれと妙な対照性があります。「どうして、お前たちは悪をもって善に報いるのだ」(4)という言葉は、かつて純真な弟ヨセフを妬んで殺そうとしたことを指しているかのような言葉ではありませんか！ 今回の出来事の中で、兄たちはかつて犯した罪の重さを、「神様はご存じなのだ」という重さで思い知らされたのです。

③予想外の展開の始まり！ ヨセフにとっても、兄たちにとっても！

しかし、それは新しい事態を生み出しました。ヨセフにとっても予想外の、兄たちによる抵抗です。予想外と言うのは、腹違いの弟を置いて帰るだろうと思っていたのが、ベニヤミンも失う父親の悲しみを思って、兄たちが「皆残る」と言い出したこと(16)、中でもユダが、「自分が身代わり(自己犠牲)になるからベニヤミンを返してくれ」と言ったことでした(33)。これに心動かされたヨセフはとうとう本当のことを話さずにはおられなくなったのです(45:1以下)。

④自分の罪深さを知らされること — 新しい本当の人生の開始！

自分の罪を心から認めることは、神の前に謙虚にされて歩む新しい自分の始まりです。すなわち、御子の十字架の死(自己犠牲)で私たちの罪を赦して下さった神様と共に歩む、新しい本当の人生の開始なのです！ 神様はヨセフの兄たちにもその道を与えられたのです。